

た か ら づ か し の 家 計 簿

令和元年度（2019年度）決算概要





市の財政状況については「広報たからづか」などでお知らせしていますが、もっと身近にわかりやすく理解してもらうため一般家庭に例えながら解説していきます。



予算と決算って？

たからづかしの家計簿では令和元年度決算を基に市の財政を説明していきます。

まずそもそも「予算・決算」とは、「予算」が使う見込みを表すものであるのに対し、「決算」とは予算を上限として市民サービスを行った結果の数字となります。

一般家庭で例えると、予算は「食費にいくら、次を買う家電にいくら」とあらかじめ計画することで、決算は実際に使ったお金のことをいいます。



市の会計の種類って1つじゃないの？

市の会計は複数に分かれています。1つだけの方がわかりやすいのかもしれませんが、例えば市民の中でも一部の方だけが加入している国民健康保険に関する収入と支出はその他の一般的なお金と分ける必要があるため会計を分けています。

一般家庭で例えると、生活していくためのお金とその他の目的のお金を別に管理していることと似ています。

宝塚市の会計について



*市によって一般会計と特別会計の分けかたが異なるため、他自治体と比較できるよう全国的に統一の基準で作る仮想の会計として「普通会計」があります。宝塚市では概ね一般会計+宝塚市営霊園事業費=普通会計となります。



いくらぐらいお金の出入りがあったの？

では、次に3つの会計の内、一番代表的な一般会計の決算状況について解説します。
一般家庭でも家計簿をつけるとどんな項目にどれだけお金を使ったのかを客観的に見れるように、市の決算を見ることで市が過去一年間で、どんな市民サービスにお金を使ったのか、またどんなお金が入ってきたのかがわかります。

さて、本市の決算状況ですが

入ってきたお金（歳入）808.5億円 - 使ったお金（歳出）797.6億円 = 10.9億円

ただし、この10.9億円の中には来年度使うことを約束しているお金（翌年度に繰り越すべき財源）が5.9億円あることから実際の令和元年度収支は

10.9億円 - 5.9億円 = 5.0億円

となり使ったお金より、入ってきたお金の方が5.0億円多かったということになります。

決算規模と決算収支の状況

(単位：億円)

	歳入決算額 a	歳出決算額 b	形式収支 a - b = c	翌年度に繰り越すべき財源 d	実質収支 c - d
令和元年度	808.5	797.6	10.9	5.9	5.0
平成30年度	778.6	770.2	8.4	4.6	3.8
増減額	29.9	27.4	2.5	1.3	1.2
増減率	3.8	3.6	29.8	28.3	31.6



補足用語説明

○「形式収支」・・・これは入ってきたお金から使ったお金を引いたものです。

市でも一般家庭でもマイナスになる場合、赤字になっている状態です。

○「翌年度に繰り越すべき財源」・・・形式収支の中には、その年度中に完了し支払いも終わる予定だったが何らかの理由で未完了となった工事等に対する支払いが含まれています。その未完了分はまだ支払いが終わっていないため財源を翌年度に繰り越すことになります。

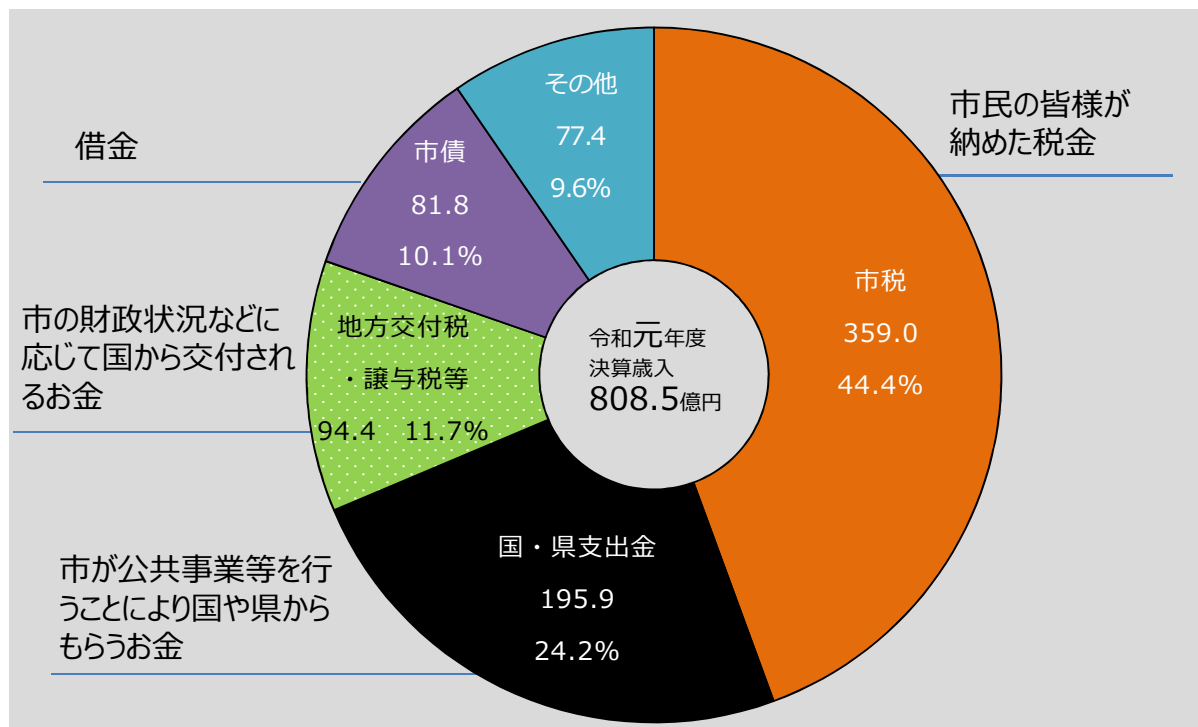
一般家庭では年度単位でお金を考えることが少ないため、イメージしにくいですが、例えば家の補修を頼んでいたが、期限までに間に合わず、それに伴って支払いも遅くなった場合などです。

○「実質収支」・・・形式収支 - 翌年度に繰り越すべき財源

入ってきたお金の内訳は？

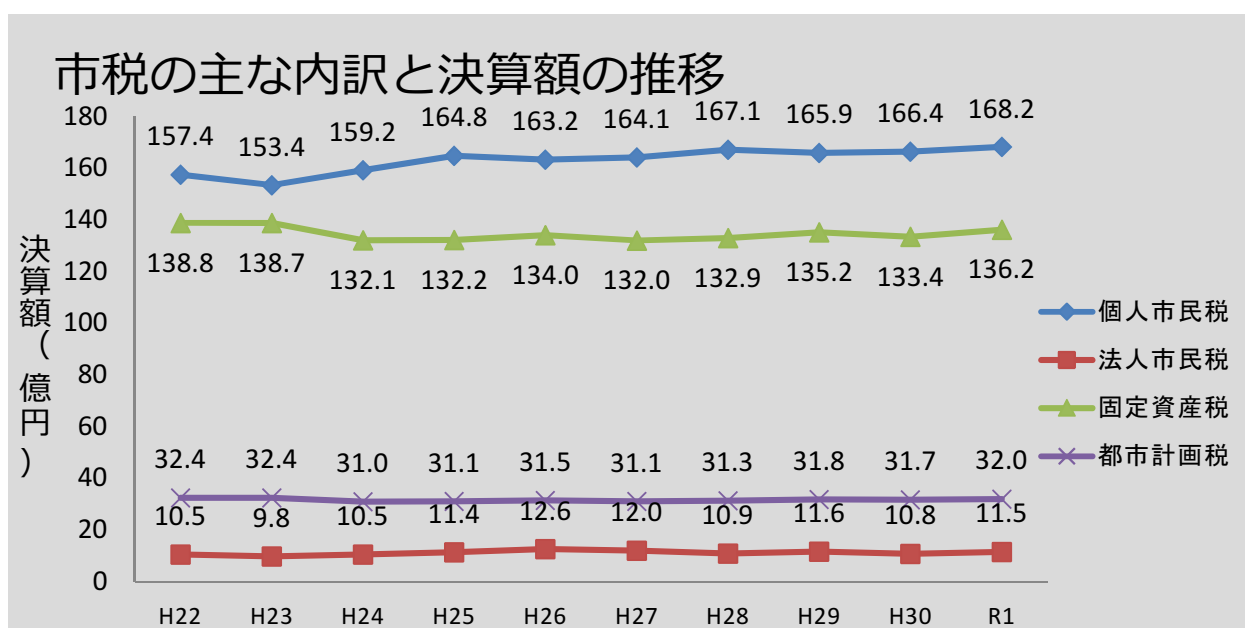
次は入ってきたお金はどんな種類で、どれくらいあるかを解説します。主な内容と数値は円グラフのとおりです。

単位：億円



本市の特徴は市税が歳入の半分近くを占めており、全国平均と比べると安定した歳入があります。（全国市町村平均の市税割合は33.6%（平成30年度決算））

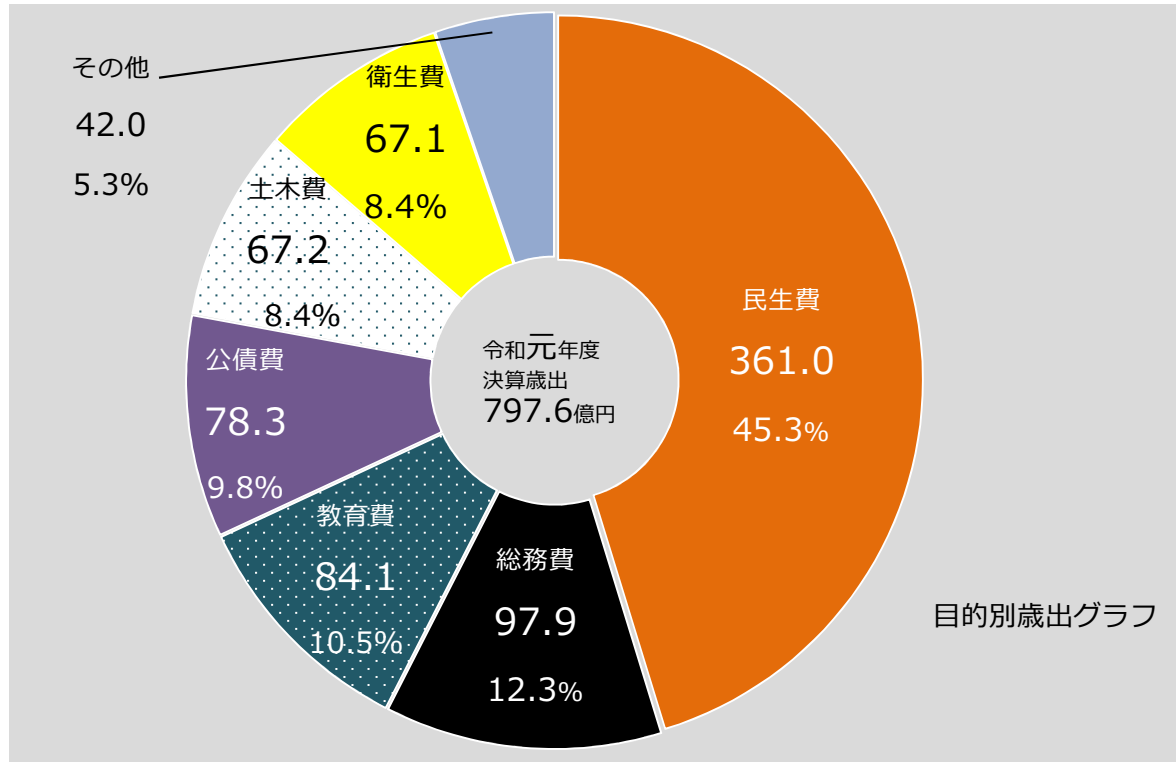
市税の主な内訳と決算額の推移は次のグラフのとおりです。



💡 どんな目的にどのくらいお金を使ったの？

次は使ったお金はどんな目的にどのくらいお金を使ったのか解説します。主な数値は円グラフのとおりです。

単位：億円



〇〇費とありますが、一般家庭で例えると食費、ガソリン代、塾代といったように目的によってお金をわけて管理するものです。

目的別の主な内容は次のとおりです。

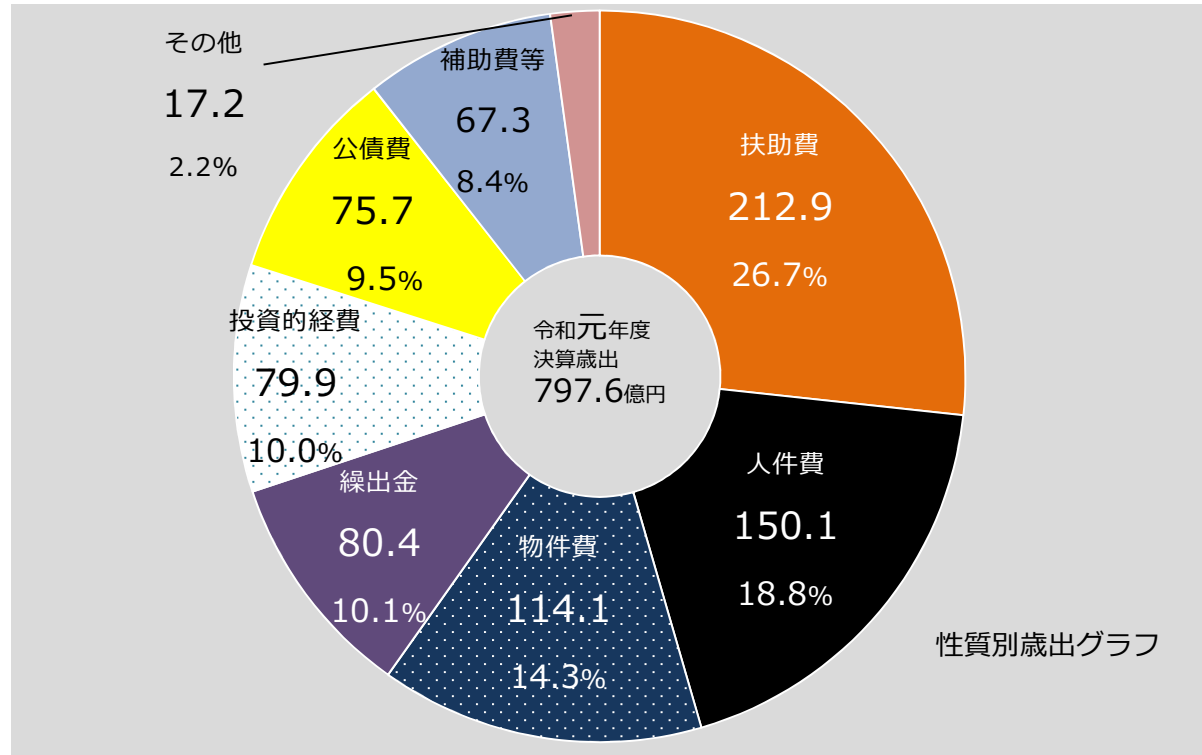
- 民生費
 - 老人・障碍（がい）者などの福祉の充実、子育て支援、生活保護などに係る経費
- 総務費
 - 庁舎や財産の維持管理、企画、広報、市税の賦課徴収、戸籍住民基本台帳事務などに係る経費
- 教育費
 - 学校教育、社会教育、スポーツ振興などの教育行政に係る経費
- 公債費
 - 地方債（借金）の返済に係る経費
- 土木費
 - 道路や公園、河川、市営住宅などの建設、整備や維持管理などに係る経費
- 衛生費
 - 市民の健康の保持増進、生活環境の改善、医療、公衆衛生などに係る経費と、ごみなどの一般廃棄物の収集・処理などに係る経費



どんなものにどのくらいお金を使ったの？

次は使ったお金はどんなものにどのくらいお金を使ったのか解説します。主な数値は円グラフのとおりです。

単位：億円



性質別の主な内容は次のとおりです。

- 扶助費
 - 社会保障制度の一環として市が各種法令に基づいて実施する給付や、市が単独で行っている各種扶助に係る経費。具体的には、生活保護法、子ども・子育て支援法、老人福祉法などに基づく給付がこれに当たります。
- 人件費
 - 給与等の経費
- 物件費
 - 光熱水費、消耗品の購入、備品購入費、委託料などの市が支出する消費的な経費の総称
- 繰出金
 - 一般会計から特別会計に支出される費用
- 投資的経費
 - 道路、橋りょう、公園、学校、公営住宅の建設等社会資本の整備等に要する経費であり、普通建設事業費、災害復旧事業費及び失業対策事業費から構成されています。
- 公債費
 - 地方債（借金）の返済経費
- 補助費等
 - 市が各種団体などに交付する補助金などの経費。企業会計（水道、病院、下水道）に対する補助金などがここに含まれます。



使ったお金のグラフから何がわかるの？

目的別や性質別のグラフを見てきましたが、そこからいえることは、福祉関連経費（民生・扶助費）や人件費の支出が多いことです。

特に性質別のうちで人件費と扶助費、公債費は義務的経費と呼ばれ支出することが義務づけられている経費です。近年、公債費は減少傾向で、人件費はほぼ横ばいですが、扶助費は増加傾向です。義務的経費が増加することは、投資的経費等その他の経費を圧迫することになります。

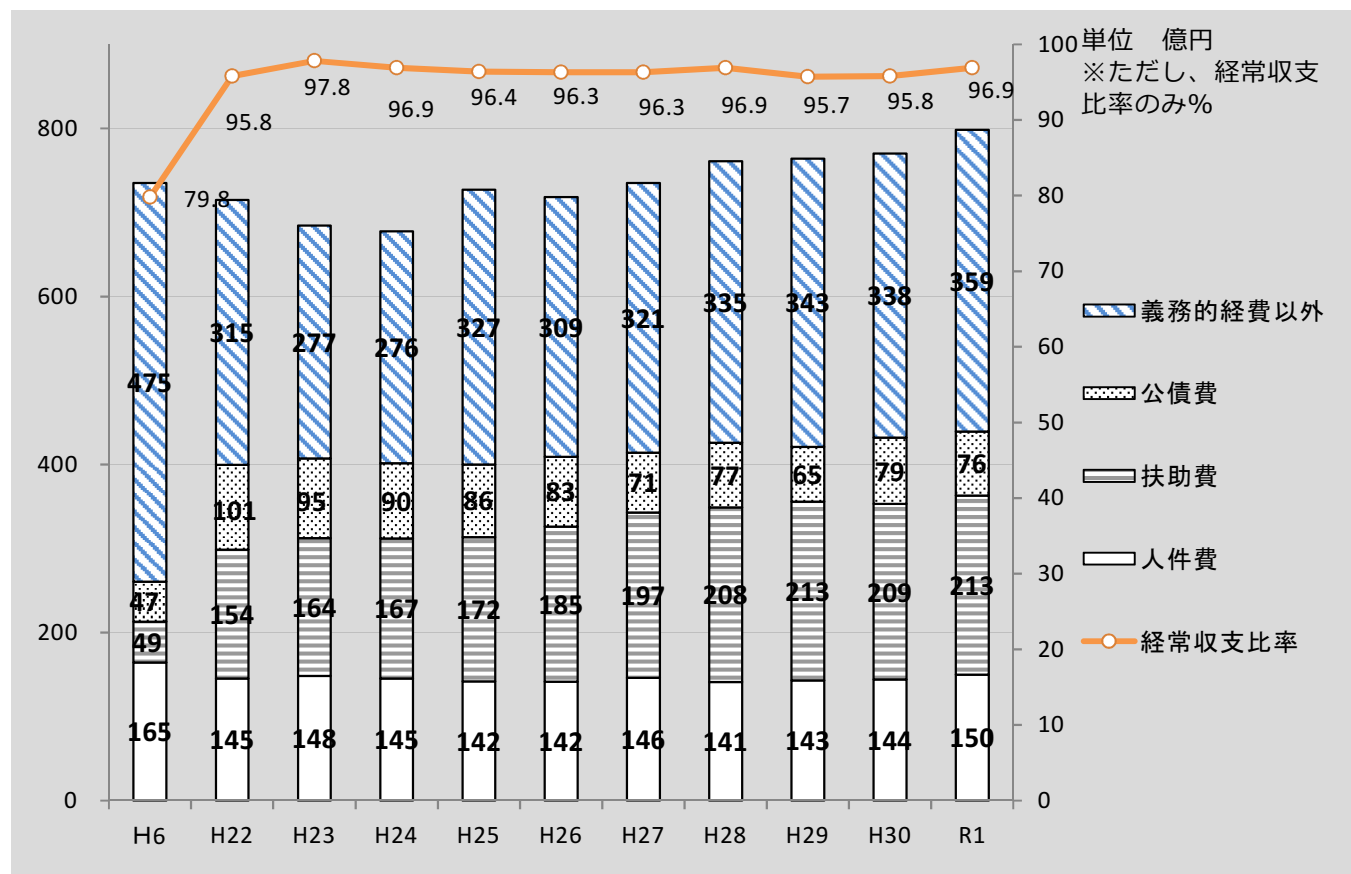
このグラフの一番左は阪神・淡路大震災前の数値を掲載していますが、扶助費、公債費がこの25年で大幅に増えていることがわかります。

○経常収支比率

→ 市税等の使い道を制限されない経常的な収入に対する人件費、扶助費、公債費など毎年度支出される経費の割合です。この数字が低いほどお金の使い道の自由度が高い、ということになります。

本市では96.9%と阪神・淡路大震災関連の借金返済や扶助費の増加によって高い経常収支比率となっています。

（全国市町村平均の経常収支比率は93.0%（平成30年度決算））





もっと身近な数字にできないの？

市の決算は言葉が難しかったり、額も大きすぎて、イメージしづらいかと思います。イメージを持っていただくため、ここでは月収42万円（年収約500万円。貯金の取り崩し、ローンの借入などを含む。）の一般家計に置き換えてみます。

たからづかしの家計簿

収入		支出	
給与	37 万円	食費（人件費）	8 万円
うち基本給（市税・地方譲与税等）	21 万円	医療費・育児費（扶助費）	11 万円
うち諸手当（地方交付税・国県支出金等）	16 万円	ローンの返済（公債費）	4 万円
貯金の取崩など（繰入金等）	0 万円	光熱水費・通信費（物件費）	6 万円
ローンの借入（市債）	5 万円	家の修理・家電購入（投資的経費等）	4 万円
		家族への仕送り（特別会計への繰出金等）	8 万円
合計	42 万円	合計	41 万円
		ローン残高（地方債残高）	444 万円
		預貯金残高（基金残高）	62 万円



家計簿を分析してみよう！

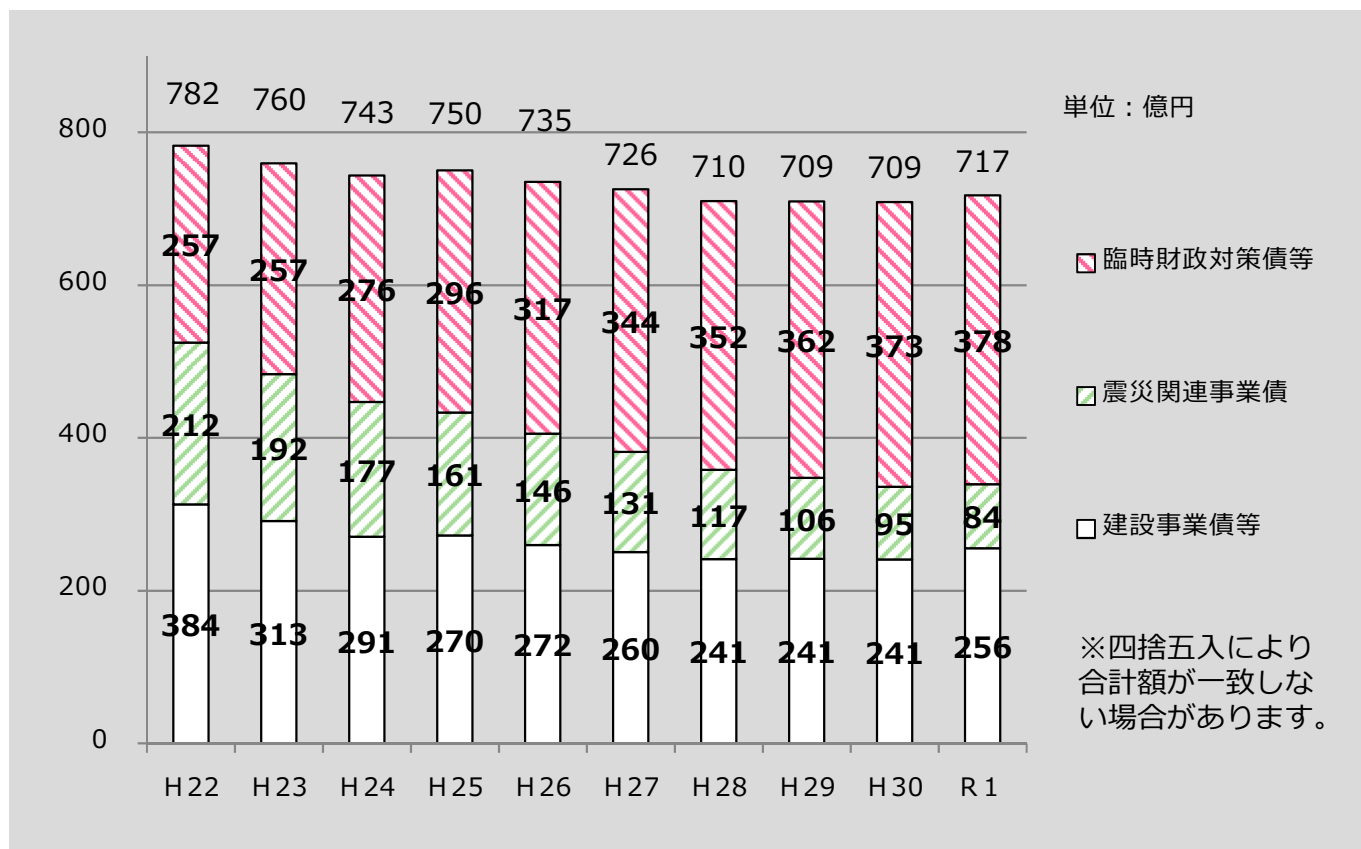
- ・医療費・育児費が多いです。家族への仕送りも多いですね。（令和元年度は家族（病院事業）への臨時の支援も行いました。）
- ・家の修理・家電購入費等を我慢してなんとか医療費・育児費・家族への仕送りを捻出しています。
- ・今後、家の修理・家電購入についても老朽化により増加することが見込まれる上、ローンの返済額も増える見込みであり、このままでは将来的に非常に厳しい家計となるため、家計のやりくりを見直していく必要があります。

※実際には、家計とは収入・支出のなどの構成や考え方は大きく違うため、本来は置き換えることはできませんが、仮に置き換えた場合、という視点で作成しています。



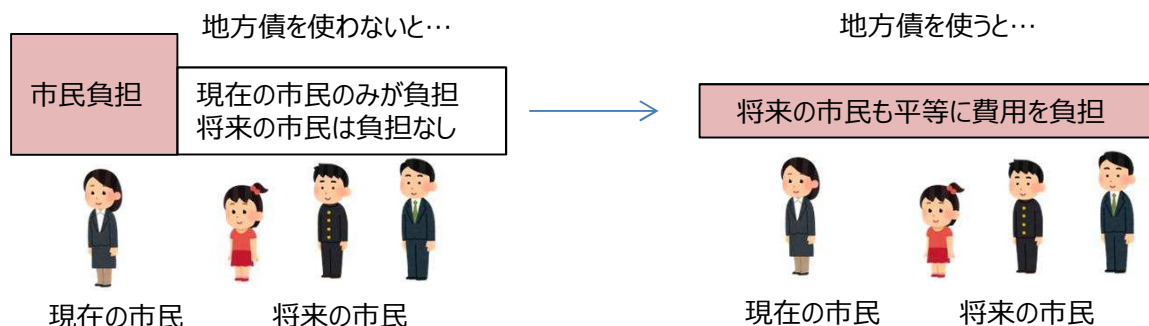
ローン（地方債）はどのくらいあるの？

地方債残高については近年、投資的経費を抑制している事により徐々に減少していましたが、大型事業などもあり、残高が増加しました。なお、臨時財政対策債等が近年増加していますが、これは国からの交付税の代替的な地方債で、後年度に交付税として措置されるもので、他の地方債とは性質が異なります。



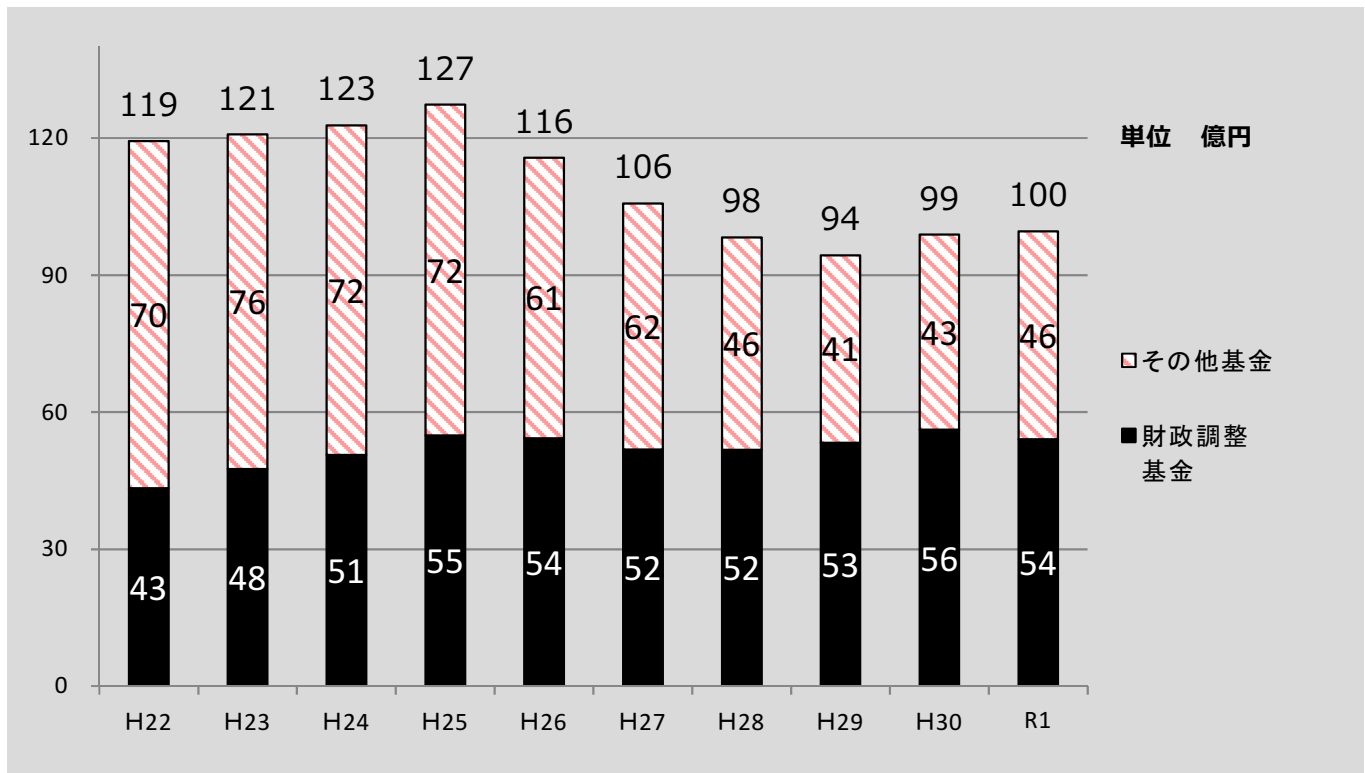
どうしてローンを組むの？

市が公共施設や道路等を建設する場合、一時的に多額の資金が必要となります。その年度だけの収入で賄うと、他の行政サービスが市民の皆さんに提供できなくなるかもしれません。また、そういった施設は将来にわたって何世代もの方が利用します。その負担を現役世代だけではなく、将来世代も負担し、市民負担の公平性を保つ観点からローンを組んで事業を行っています。このローンのことを地方債と呼びます。



貯金（基金）はどのくらいあるの？

一般家庭でいう預貯金にあたるものを市では基金と呼びますが、その基金の残高は次のグラフのとおりです。平成26年度以降は4年続けて減少していましたが、平成30年度より微増傾向です。しかしながら、施設の整備及び保全のための基金やローン（地方債）返済のための基金などが乏しい状況であります。



どうして基金が必要なの？

一般家庭でも教育や旅行など、貯蓄目的を分けて積み立てることもあるかと思います。同じように市の基金もお金のやりくりをするための財政調整基金や決まった目的のために積み立てている特定目的基金等があります。安定した行政サービスを提供するために、災害時や経済情勢の悪化など不測の事態に備えておく必要があります。



特別会計の状況

歳入総額 15の特別会計の歳入総額は、482.2億円でした。
歳出総額 15の特別会計の歳出総額は、471.4億円でした。
実質収支額 来年度使うことを約束しているお金（翌年度に繰り越すべき財源）が0.4億円あることから、10.4億円の収支プラスでした。

主なものとしては、特別会計国民健康保険事業費が4.6億円、介護保険事業費が4.1億円、後期高齢者医療事業費が1.4億円の収支プラスとなりました。

水道事業の状況

収益は、43.4億円でした。
費用は、53.1億円でした。
純損失は、9.7億円でした。

平成27年度から4年連続の収支プラスでしたが、令和元年度は収支マイナスになりました。



下水道事業の状況

収益は、44.1億円でした。
費用は、40.0億円でした。
純利益は、4.1億円でした。

平成27年度から5年連続の収支プラスになりました。



病院事業の状況

収益は、124.9億円でした。
費用は、125.4億円でした。
純損失は、0.5億円でした。

平成27年度から5年連続の収支マイナスになりました。



市の状況を図るものさしはないの？

一般家庭でもローンの審査を受ける時に、所得やローン状況等を金融機関にチェックしてもらい融資を受けることになると思います。



それと同じように市でも一定の基準を満たしていないと新たな借金ができない等の国のチェック機能（健全化4指標）や国からもらえるお金の基礎となる財政力指数という数字等があります。

健全化4指標

国の基準に基づく4つの指標です。一定基準を超えると新たな借金（地方債）を制限されるなど、自治体が破たんしないようにするチェック機能の役割があります。

実質赤字比率・連結実質赤字比率については赤字が発生していないので対象外です。実質公債費比率及び将来負担比率も早期健全化基準以下となっていますので今のところおおむね良好であるといえます。

ただし、公営企業における資金不足比率については、病院が13.5%となっており、早期健全化基準までは至らないものの持続可能で健全な経営を実現するため、引き続き、収支改善に向けて取り組む必要があります。

単位:%

健全化4指標

	令和元年度	(イエローカード) 早期健全化基準	(レッドカード) 財政再生基準
実質赤字比率	なし	11.36	20.00
連結実質赤字比率	なし	16.36	30.00
実質公債費比率	3.6	25.0	35.0
将来負担比率	22.6	350.0	
公営企業における資金不足比率	水道	なし	20.0
	下水道	なし	20.0
	病院	13.5	20.0

財政力指数

この指数が高いほど財政力が高く、1.0を超えた場合には国からの交付税なしに財政運営することができます。ちなみに宝塚市は0.887で本市と同じ施行時特例市(※)の全国平均（平成30年度決算）は0.85です。

※ 施行時特例市

特例市制度は、平成12年4月1日から施行し、平成27年4月1日に廃止されました。

特例市制度廃止の際、現に特例市である市（施行時特例市）は特例市としての事務を引き続き処理することとなります。

結局たからづかしの財政はどうなの？

これまで様々な角度から決算を見てきましたが、「数字はわかったけど、宝塚市はどうなの？」という視点で決算を見てみます。

まず特徴を4つあげると次のとおりです。

- 歳入のうち、半分近くが市税である
- 健全化4指標は、危機的状況ではない
- 市債残高は、維持傾向。ただし、今後は建替更新などにより増加が見込まれる。
- 基金残高は、微増傾向。ただし、今後、新型コロナウイルス感染症の影響により税収減が見込まれ、基金を取崩さなければならない可能性が高い。



令和元年度決算を見る限りでは、国の基準に基づく指標では概ね健全な財政状況を示しています。しかしながら、将来を見据えると、新型コロナウイルス感染症による影響や生産年齢人口の減少に伴う税収減などが懸念され、歳出面では、子育て支援の充実や高齢化社会の進展などによる社会保障関連経費の増加に加え、公共施設の老朽改修、建替更新や他会計への財政支援など、今後は大変厳しい財政運営が見込まれます。

これらの課題解決に向けて、現在、行財政経営戦略本部を立ち上げ、公共施設の老朽改修などに優先的に予算を配分することや、市の裁量による経費とそうではない義務的な経費がどの程度あるのかを明らかにしました。この調査結果と新型コロナウイルス関連経費や歳入への影響も見据えた上で、行財政経営戦略本部において、来年度以降の事務事業の選択と集中などの方向性を示し、これに基づき財政運営を行っていきます。





参考資料 令和元年度決算でみる主な事業

I これからの都市経営

新庁舎・ひろば整備事業

～NTN(株)宝塚製作所跡地利活用の目標像である「いこい・つどい・ささえあう市民の『ひろば』」の実現を図るため、ひろば整備工事を進めると共に、建設工事の入札が不調となった新庁舎の構造等を見直すため、危機管理センター・ネットワークセンターの機能を備えた新庁舎の再設計委託業務に着手しました。～

241,481千円



住民自治組織支援事業

～まちづくり協議会の運営や、地域ごとのまちづくり計画の見直しなどについて支援を行い、地域自治の確立を図りました。～

9,996千円



Ⅱ 安全・都市基盤

犯罪被害者等支援事業（防犯事業）

～犯罪被害者等が直面する日常生活の様々な問題に向き合った心に寄り添った支援を行うため、日常生活の支援、居住の安定のための支援、精神的な被害からの回復に向けた支援を新たに設け、誰もが安心して暮らすことができるまちづくりの推進を図りました。～

312千円



犯罪被害者等支援
シンボルマーク
「ギュっとちゃん」

花のみち舗装リニューアル事業（道路維持事業）

～訪れた方々をもてなし、文化芸術施設へ誘うときめきと憩いの空間として花のみちの環境改善を図りました。平成30年度に行った設計委託業務をもとに、老朽化した歩道舗装の更新、既存の植栽の見直しやベンチの更新を行いました。～

36,392千円



Ⅲ 健康・福祉

共同受注窓口補助金（障碍（がい）者就労支援事業）

～市内の福祉事業所が個別に仕事を受けるのではなく、まとめて受注する共同受注窓口の活動を支援するために必要な経費の補助を行い、受注件数を増やすとともに、工賃の増加につなげました。～

6 1 7 千円



低所得者保険料軽減（特別会計介護保険事業費繰出金）

～介護保険の第1号被保険者のうち、非課税世帯の保険料を軽減しました。～

1 2 7, 5 7 0 千円



IV 教育・子ども・人権

ひとり親家庭生活学習支援事業（母子等福祉総務事業）

～ひとり親家庭の子どもが抱える課題に対応するため児童扶養手当を受給している家庭の中学校2年生、3年生を対象に、通塾による生活学習支援を行いました。～

8,451千円



学校コンクリートブロック塀改善事業（小学校・中学校・特別支援学校・幼稚園施設整備事業）

～市立学校園の全てのコンクリートブロック塀のうち、内部点検により劣化が確認されたものについて、安全の確保に向けた改修を行いました。～

187,718千円



ひとり親家庭大学生等奨学給付事業（奨学助成事業）

～所得が児童扶養手当の受給に係る所得制限以下であるひとり親家庭の経済的な負担を軽減し、大学等への就学を奨励することを目的として一人当たり20万円を給付する奨学金を創設しました。～

22,200千円



V 環境

省エネルギー促進事業

～地球温暖化対策の一環として、家庭における省エネの取組実績をポイント化し、商品券と交換する「省エネチャレンジたからづか2019」を6～9月に実施し、市民の省エネ行動を促進しました。～

2,999千円

省エネチャレンジたからづか2019

この夏、家族で
省エネに取り組んで
商品券等をもらおう！

宝塚市は、地球温暖化対策の一環として、市民の省エネの取組を促進する新たな事業「省エネチャレンジたからづか2019」を実施します。ぜひご参加ください！

対象：市内の300世帯（先着）
参加受付：2019年6月3日（月）～8月30日（金）
※参加登録の方法は裏面に詳しく記載されています。

取組期間：6月～9月
取組内容：電気・ガスの使用量削減、「うちエコ診断」の受診、10年以上使用している冷蔵庫・エアコン・テレビの買換え、クールシェアスポットへの参加など。地域エネルギー推進・共催イベントへの参加

実績報告：2019年10月18日（金）必着
商品券等：取組実績に応じて500ポイント（500円）単位でポイントが付与されます。最大2000円相当分までの商品券等（下記の①～⑦）を選べます。

商品券等コース

①商品券 アピタ アピタ アピタ	②商品券 アピタ アピタ アピタ	③商品券 アピタ アピタ アピタ	④商品券 アピタ アピタ アピタ
⑤商品券 アピタ アピタ アピタ	⑥商品券 アピタ アピタ アピタ	⑦商品券 アピタ アピタ アピタ	⑧商品券 アピタ アピタ アピタ

※参加登録の方法は裏面に詳しく記載されています。

宝塚市は、地球温暖化対策の一環として、市民の省エネの取組を促進する新たな事業「省エネチャレンジたからづか2019」を実施します。ぜひご参加ください！

VI 観光・文化・産業

文化芸術センター・庭園整備事業、文化芸術センター・庭園運営事業

～新たな文化創造と市民交流の場として、文化芸術センターと庭園を整備しました。また、オープンに向けての施設への関心や期待を高めるイベントや内部見学会を実施し、備品の購入や事業計画の策定など、開設準備を進めました。～

1, 594, 020千円



手塚治虫記念館リニューアル事業

～来館者の満足度向上のため、館内展示物や展示空間のリニューアルを行いました。～

104, 639千円



プレミアム付商品券事業

～消費税・地方消費税の10%への引上げが低所得者・子育て世帯の消費に与える影響を緩和するとともに、地域における消費を喚起することを目的として、プレミアム付商品券の販売を行いました。～

218,288千円



たからづかしの家計簿 令和2年（2020年）12月作成
企画経営部 行財政改革室 財政課
電話0797-77-2022